

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、法規法令を遵守します。
- 2 私たちは、子どもたちのよき手本となります。
- 3 私たちは、地域に開かれた学校にします。

不祥事根絶のための行動計画

呉市立宮原中学校

作成責任者 校長 馬屋原 美智子

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教員の規範意識の確立	<p>○教職員が、不祥事を当事者意識を持って各自の課題として考えるために、マンネリ化・形骸化しないように、教職員参加型の研修の充実を図る等、さらに方法や内容の改善して行く必要がある。</p> <p>○日常の教育活動の中に、「ヒヤリ・ハット」を感じさせる場面がある。</p>	<p>○服務研修の内容を工夫(教職員参加型のプログラムの充実等)し、すべての教職員に、研修効果を実感させる。</p> <p>○日常の「ヒヤリ・ハット」からみられる課題を全教職員で共有し、常に個々へフィードバックする。</p> <p>○整理整頓を行う。</p>	<p>○全教職員が服務研修を分担して、企画(方法や内容等の改善)・実施する。</p> <p>○全教職員に「ヒヤリ・ハット」も含めたアンケート調査を行い、服務研修の方法や内容の改善を図り、規範意識の向上を図る。</p> <p>○職員室の整理整頓週間を設定する。</p>	<p>○不祥事防止委員会で研修の振り返りを行い、改善を図る。</p> <p>○各学期、全教職員にアンケート調査を行い、不祥事防止委員会で検討する。</p>
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<p>○チームとしての組織力は改善されているが、各学年・分掌のリーダーの役割が十分に果たされているとはいえない。組織の機能性の向上のために、さらなる人材の育成が必要である。</p>	<p>○チームとしての組織力及び機能性の強化を図るため、教職員のさらなる信頼関係の構築と人材育成を推進する。</p> <p>○「ヒヤリ・ハット」に気づき、教職員が相互に指摘しあえる風土を醸成する。</p>	<p>○企画会議等で主任主事間で、情報交換や連携を行い、組織的および計画的に取り組ませる。</p> <p>○無関心にならず、声かけしていくことで、チームとして、同僚性の共有化・日常化を図る。</p>	<p>○月に1回、不祥事防止委員会で情報交換を行い、分掌や学年の状況を把握する。</p>
相談体制の充実	<p>○「体罰、セクシャル・ハラスメント相談窓口」の認知度を高める必要がある。</p> <p>○生徒が、気軽に何でも相談できるという相談体制を確立する必要がある。</p>	<p>○「体罰、セクシャル・ハラスメント相談窓口」あらゆる場面で周知する。</p> <p>○開かれた学校づくりをさらに推進し、保護者・生徒から信頼され、何でも相談できる学校体制をつくる。</p>	<p>○保護者・生徒に繰り返し周知するとともに、校内、全教室にポスターを掲示する。</p> <p>○学期ごとに保護者・生徒にアンケートを実施し、体罰・セクハラについて状況把握を行う。</p> <p>○毎月、「学校生活アンケート」を生徒に行い、いじめ等の状況把握を行う。</p> <p>○定期的(学期に1回)に、教育相談を実施することで信頼関係を構築する。</p>	<p>○学期に1回生徒、保護者、教職員を対象にアンケートや面談を実施し、継続指導を確実にを行う。</p> <p>○学期末の不祥事防止委員会で進捗状況を確認する。</p>